

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 9 月 29 日現在

機関番号：32668
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2015～2017
 課題番号：15K03966
 研究課題名(和文) 精神障害者の地域移行を促進する多機関連携によるクラウドシステムの構築と活用

 研究課題名(英文) mental health service

 研究代表者
 古屋 龍太 (Furuya, Ryuuta)

 日本社会事業大学・福祉マネジメント研究科・教授

 研究者番号：70516343
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、精神科病院の長期入院者の退院・地域移行を促進するために、精神科病院・地域事業所・行政による効果的な協働のモデルを構築することを目的とする。

全国15圏域の精神科病院と地域移行支援に取り組む事業所を対象に、効果的なチーム支援のためのプログラム要素を検証した。評価ファシリテーターが各圏域を訪問してフィデリティを確認するとともに、実践家が参画しての意見交換会を開催した。これらの取組みにより『効果のあがる病院・地域統合型退院促進・地域定着支援プログラム実施マニュアル&ガイドライン』を作成し、併せてウェブを用いて各地の現場における効果的支援プログラムの向上を図るクラウドシステムを構築した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

精神科病院に長期在院している精神障害者の退院促進・地域移行支援の取組について、プログラム評価の観点から標準的な実施マニュアルを示すことができた。これにより、諸外国に比べて遅々として進まない我が国の脱施設化を推し進めるための、各地での支援機関・医療機関の取組が、現行の制度モデルを超えて、より実効性のある効果モデルに転換することが可能となる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to construct a model of effective cooperation (or Integration) by psychiatric hospitals, community support centers, and public administration in order to promote moving long-term inpatients at psychiatric hospitals. We examined the program factors for effective integrated team support for moving to the community from psychiatric hospital, at 14 areas' in Japan. For the purpose, the evaluation facilitators visited each area to confirm the fidelity and held meeting with these area's staffs. As the result, "Implementation Manual & Guidelines of Effective Support Program Integrated with Hospitals and Community Support Centre For Stable life at the Community" and a cloud computing system that improve effective support programs in various places were created.

研究分野：精神保健福祉

キーワード：精神障害者 精神科病院 地域移行支援 地域定着支援 退院促進 相談支援 プログラム評価 クラウドシステム

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1．研究開始当初の背景

我が国の精神科病院には、受け入れ条件が整えば退院可能な長期在院患者（いわゆる社会的入院患者）が今なお 7 万人入院していると推計されており、著しく地域移行が遅れている。国は様々な地域移行支援方策を打ち出したが、いずれの事業についても、効果を生み出す社会プログラムモデルとしてプログラム効果を検証することは為されておらず、大きな成果を生むことなく現在に至っている。

筆者らが、2007 年度から構築してきた「効果的退院促進・地域定着支援プログラムモデル」は、国や都道府県の事業の範囲を超えた独自の援助要素を取り入れ成果を上げて来たグッドプラクティス事例の経験を集積し、その関係者との対話の中で生み出されて来ている。今後は、医療機関と地域支援機関の連携協働による効果的プログラムモデル形成のための具体的方法論を検討し、それを用いた効果モデルを構築する必要がある。多様な支援課題を抱える地域移行実践には、必要な評価活動を実践家が主体的に行う仕組みが必要とされており、ICT（情報通信技術）を活用したモニタリングシステム（以下クラウドシステム）を開発し、支援組織を構築することが求められている。

2．研究の目的

本研究の目的は、精神科病院に長期在院している社会的入院患者の退院・地域移行を促進し、地域社会での安定した生活への定着支援を実現することによって、精神病床の削減を図るために有効な精神科病院、地域事業所、行政の協働モデルを作るものである。WEB のクラウドシステムを用いて、実践家と協働して各地で展開されている取り組みを検証し、効果的な地域移行・地域定着支援のプログラムモデルとして効果を生み出すプログラム要素やプログラム理論を構築する。合わせて、精神科医療機関及び地域支援機関の実践現場で実施可能な効果的支援ガイドラインと実施マニユア

ルを作成し、全国各地での効果的・地域移行・地域定着支援を推進することが本研究の目的である。

3．研究の方法

地域移行・地域定着支援の効果的プログラム暫定モデルに基づき、全国 14 エリアの精神科病院・地域福祉サービス事業所の実践家と連携し、クラウドシステムを用いて利用者のアウトカムを検討し、研究班の連携研究者・研究協力者が評価ファシリテーターとして介入先に訪問調査を行う。評価ファシリテーターは、プログラム評価の理論と方法を用いながら、他圏域の取り組み状況も踏まえて、システムアウトカムの評価を実施する。意見交換会を通して実践家参画型のプログラム形成評価を進め、病院・地域・行政統合型の包括的効果的援助要素を構成し、効果的支援ガイドラインと実施マニュアルを作成した。

4．研究成果

全国 14 圏域の精神科病院と地域移行支援に取り組む事業所を対象に、効果的なチーム支援のためのプログラム要素を検証した。評価ファシリテーターが各圏域を訪問してフィデリティを確認するとともに、実践家が参画する意見交換会を開催した。これらの取り組みにより『効果のあがる病院・地域統合型退院促進・地域定着支援プログラム実施マニュアル&ガイドライン』を作成した。また、併せてウェブを用いて各地の現場における効果的支援プログラムの向上を図るクラウドシステムを構築した。

本研究最大の成果は、長期在院精神障害者の地域移行・地域定着支援にかかわる実践家に対して、クラウドシステム活用による支援チームの組織化を提案し、有効で実施可能なプログラム評価アプローチ法、及びそれを実践に活用するガイドライン、実施マニュアルと、評価ツールを開発したことにある。これらの成果物を印刷・製本して関係者に配布するとともに、ホームページを作成して

公開するほか、今後は出版社より刊行を予定している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

古屋龍太:「長期在院患者の退院・地域移行を推し進めるミクロ・メゾ戦略～効果的支援のプログラム要素と連携クリニカルパスの結合による地域移行支援方策の提起」病院・地域精神医学 59(2); 186-189,2017

高野悟史・中越章乃・瀧本里香・山下眞史・古明地さおり・贅川信幸・古屋龍太・大島巖:「効果をあげる地域移行・地域定着支援プログラムの再構築～病院・地域実践統合にむけた実践家参加型形成評価プロジェクト」病院・地域精神医学 59(2); 189-191,2017

〔学会発表〕(計8件)

高野悟史・中越章乃・瀧本里香・山下眞史・古明地さおり・興津純・贅川信幸・古屋龍太・大島巖:「精神科病院と地域事業所の実践を統合した地域移行・地域定着支援プログラム～実践家参画型プログラム評価によるプロセス理論の検討」第32回日本ソーシャルワーク学会大会(清瀬市), 2015.7.19

高野悟史・中越章乃・瀧本里香・山下眞史・古明地さおり・贅川信幸・古屋龍太・大島巖:「効果をあげる地域移行・地域定着支援プログラムの構築～病院・地域実践統合にむけた実践家参画型形成評価プロジェクト～」第58回日本病院・地域精神医学会総会(多摩市), 2015.11.6

高野悟史・中越章乃・瀧本里香・山下眞史・古明地さおり・贅川信幸・古屋龍太・大島巖:「長期在院精神障害者の地域移行を加速させる効果的な退院促進支援プログラムの検討～現場支援者と研究プロジェクト協働による全国10地域との意見交換から～」第58回日本病院・地域精神医学会総会(多摩市), 2015.11.6

古屋龍太:「長期在院患者の退院・地域移行を推し進めるミクロ・メゾ戦略 - 効果的支援のプログラム要素

と連携クリニカルパスの結合による地域移行支援方策の提起」第58回日本病院・地域精神医学会総会(多摩市), 2015.11.6

古屋龍太・高野悟史・中越章乃・古明地さおり・山下眞史:「長期入院患者の地域移行支援を推し進めるために-実効性のある支援プログラムとは何か(地域移行・地域定着支援の効果をあげるために取り組むプログラム評価)」, 2016年第3回こころのバリアフリー研究会総会企画シンポジウム、東京、2016.6

古屋龍太・高野悟史・中越章乃・瀧本里香・古明地さおり・古屋喜代子・山下眞史・贅川信幸・岩見祐亮・大島巖:「長期入院患者の退院促進・地域定着支援のためのガイドラインの検討～効果的援助要素を軸とした病院地域統合型支援マニュアルをベースに」第59回日本病院・地域精神医学会総会(練馬区), 2016.10.14

古屋龍太・高野悟史・中越章乃・古明地さおり・古屋喜代子:「長期入院患者の退院促進・地域定着支援のための戦略ガイドラインの試行～病院・地域統合型支援マニュアルをベースとした圏域体制構築の試み」, 第60回日本病院・地域精神医学会総会(松本市), 2017.11.4

高野悟史・古屋龍太・大島巖・中越章乃・瀧本里香・山下眞史:「精神科病院長期入院者の効果的退院促進・地域定着支援モデル実践ガイドラインの検討～統合支援チームの試行評価調査から」, 2017年日本精神障害者リハビリテーション学会第25回久留米大会(久留米市)ポスター発表, 2017.11.

〔図書〕(計1件)

古屋龍太・大島巖・興津純・古明地さおり・酒本知美・高野悟史・瀧本里香・中越章乃・贅川信幸・古屋喜代子・山下眞史『文部科学省平成27年度科学研究費補助金基盤研究(C)精神障害者の地域移行を促進する多職種連携によるクラウドシステムの構築と活用.効果のあがる病院・地域統合型退院促進・地域定着支援プログラム実施マニュアル&ガイドライン』2018年3月発行.効果のあがる退

院促進・地域定着支援プログラムのあり方研究会

(代表：古屋龍太)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

<http://ppcfe.com/taisoku/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

古屋 龍太(日本社会事業大学大学院福祉マネジメント研究科、教授) 研究者番号：70516343

(2) 連携研究者

中越 章乃(神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部、助教) 研究者番号：30641526

酒本 知美(日本社会事業大学通信教育科、講師)
研究者番号：90636937

大島 巖(日本社会事業大学社会福祉学部、教授)
研究者番号：20194136

贅川 信幸(日本社会事業大学社会福祉学部、准教授)
研究者番号：30536181

(3) 研究協力者

高野 悟史(医療法人財団青溪会駒木野病院、精神保健福祉士)

古屋喜代子(医療法人誠心会神奈川病院、看護師)

古明地さおり(医療法人財団青溪会グループホーム駒里、精神保健福祉士)

山下 眞史(特定非営利活動法人ネオ、理事長)

瀧本 里香(日本社会事業大学社会福祉学部、非常勤講師)

興津 純(医療法人財団青山会福井記念病院、精神保健福祉士)

岩見 祐亮(ふくしま心のケアセンター、精神保健福祉士)

大石 信弘(社会福祉士・精神保健福祉士事務所静岡まちとも、代表・精神保健福祉士)